

勧告、指示 予想外れても津波は避難

チリ地震による津波への警戒態勢が近畿各地でも敷かれたが、太平洋のはるかかなたからやってくる津波の高さや第1波の到達時間の推定は、実は難しい。

津波が通過する海底の地形や、近づいてからは湾の形状によって複雑に変化するからだ。

精密な海図があるのは、日本近海など、世界でもごく狭い海域であり、広い太平洋の大部分では精度は悪い。肝心の洋上の測量船の位置が、かつては不正確であった。最近になって静止衛星を使うようになり正確になった。

だから、津波の高さや第1波の到達時刻を正確に計算できるのは、日本近海で起こる三陸の津波

や東海、東南海、南海地震などによる津波に限られる。

今回、ハワイでは海岸沿いのホテルの宿泊客に対して、「10分の津波が来るので、4階以上のフロアに避難するように」という勧告がなされた。実際には高さは1分程度であったが、誰からも苦情は出なかったと聞いている。

しかし、予想が外れた場合、どうも日本人は不満をあらわにする傾向がある。避難勧告や指示に従うことがそれほど損なことであるのだろうか。

それを象徴したのは、気象庁の担当課長の謝罪だった。津波の高さが予想よりもかなり低かった理由を言わずに謝ったのでは、住民

は次はもっと避難しなくなるだろう。

日本の国民は、今回の津波をスーパーコンピューターで計算しているかのように思っているかのようだ。仮に、スーパー

コンピューターで計算しても、現状では残念ながら精度が悪い。

私たち日本人には自然に対する畏敬(いけい)の念がいつから失われたのだろう。

避難勧告や指示が外れたら被害が起こらなかったということである。それに対する感謝はどこに行ってしまったのだろう。津波警報を知っていてサーフィンや海釣りをしていた人も多かったらしい。

日本の津波研究は、世界トップであると自負している。それで

も、津波の理論を現実に適用する場合、かならず前提条件がある。計算精度というものはこの前提条件で左右される。

近い将来、東海、東南海、南海地震のいずれかが起こり、仮にすばやく避難しても、1万人近い犠牲者が出ると予想される。

地震直後に震源に近い沿岸部の住民や津波来襲が予想される臨海低平都市の住民が避難しなければ、間違いなく数万人以上に犠牲者は膨れ上がる。

インド洋大津波で約23万人も犠牲者が出たのは、津波の大きさだけではない。いかに多くの住民が海岸近くに住んでいたかということと、警報がなかったために、避難しなかったからである。

(関西大学社会安全学部長＝4月に就任予定、河田恵昭教授)

